

5/17

看護フェア開催

5月12日の看護の日になんで開催した日南病院での看護フェアでは、玄関で看護師等がパンフレットやプレゼントを配布して、訪れた人へ健康に気を付けるよう呼びかけました。当日出迎えた看護師の渡邊聖奈さんと看護助手の原このみさんは「入院中でも普段の生活でも自分らしい生活を送っていただけるよう、みなさんの声を聞いて支援できるように心がけています。」「困ったことがあったら私たちに気軽に声をかけてください」と話しました。



5/16

にちなん十色 きりん組 鮎の放流

日野川水系漁業協同組合から提供を受けた鮎の稚魚をにちなん十色きりん組の子どもたちが日野川へ放流しました。組合理事の福田一哉さん（生山）から鮎の生態や自然との関係について説明を聞いた後、園児たちはバケツに数匹ずつ分けてもらった鮎の稚魚を手を振るなどしながら見送っていました。漁場副監視長の平井博之さん（生山）は「日野川を知って、日野川とそこに生きる生物を大事にしてもらいたい。たくさん放流したので6月1日の鮎釣り解禁日以降“ボウズ”にはならないと確信しています。」と話しました。



5/25

にちなんふくしフェスタ 2024

高齢者・障がい者が安心して生活できる環境にすることをテーマに開催されたこのイベントは全体で100人を超える参加者が訪れ、中山間地「まちづくりフォーラム」や文化センター芝生広場でのノウフクマルシェもにぎわいました。「セルフひの」利用者が制作された作品を展示した役場交流ホールでは、あかり広場ににちなんつなでを事務局とするにちなんふくしフェスタ実行委員会が主催となり、全国社会福祉協議会副会長 古都賢一さんの講演「共に生きる豊かな地域社会をめざして」や、パネルディスカッション「みんなのまちづくり」などが行われ会場の人々が耳を傾けていました。



5/28・30

こども園と日南小で アート出前授業

美術館で準備が進められているガラスの壁画作成のため、にちなん十色と日南小学校の子どもたちがアート出前授業を体験しました。にちなん十色では、長く大きな紙に園児たちが自由に絵をかき、ガラスの壁画に携わるアーティストの朝倉弘平さんと楽しそうに話しながら、走りながら、寝転がりながら自由に描き進めていました。また、日南小では一人ひとりに画用紙が配られ、クレパスや色鉛筆、サインペンなどいろいろな画材を使って作品作りに取り組みました。描き終わった後には、数人の児童が朝倉さんから質問されながら作品について説明し、「桜の花が見える大きな橋」や「空で魚と鬼ごっこをしているところ」など、個性豊かな作品ができあがりました。これらの作品をもとに朝倉さんが美術館前のガラスいちめんにアート作品を制作されます。

